



旅立ち

ある時、神倭伊波礼毘古命は「どこを中心にしたら、この国をうまく治められるだろうか。もつと東の方へ行ってみよう。」とお兄さんの五瀬命と高千穂宮（九州・宮崎県）でご相談をなさいました。

そしてすぐに自分の住んでいる日向（宮崎）を出発し、船に乗って東へ向かいました。

命の一行は、速吸門という海峡までやってきました。潮の流れが速く、船が思うように進みません。その時、亀に乗った不思議な人に出会いました。

「お前は、この海をよく知っているか。」と命はたずねました。「知っております。お仕えし、ご案内いたします。」

命は喜んで、その人に槁根津日子と名前を与え、道案内を頼みました。

一行は、宇佐（大分）、筑紫（福岡）と進み、九州を離れ瀬戸内海に入りました。その後は安芸（広島）、吉備（岡山）に立ち寄りながらなおも東へと向かいました。

